

令和2年：年頭所感

全国酒販生活協同組合

会長 三橋敏弘

新春を迎え、全国の組合員・役職員各位をはじめ、関係業界、団体各位のご多幸のご繁栄を心からお祈り申し上げるとともに、平素の温かいご協力に対し、衷心より感謝の意を表するものでございます。

現在我が国は、少子高齢化社会への対応、質の高いインフラ投資、気候変動や自然災害に対する回復力の強化などのグローバルな課題が蓄積されています。専門家からは、「日本は超成熟社会を迎えており、数多くの課題を解決するには非常に大きな変革を起こす必要がある」との指摘もあります。

私たち日本人は、豊かな恵みをもたらす一方で、時として荒々しい脅威となる自然と対立するのではなく、自然に対する畏敬の念を持ち、自然に順応し、自然と共生する知恵や自然観を培ってきましたが、昨年も前線に伴う大雨や、台風などの大規模災害が発生し、居住していた住宅が損壊するなどの被害が相次ぎました。被災された組合員のご心痛はいかばかりかと、心よりお見舞い申し上げ、被災地の皆様のご健康でありますこと、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

一方、生協事業に関連のある保険業界は、人口構造が大きく変わるなかで国内マーケットの縮小が懸念されており、従来の発想とは異なる商品戦略が求められております。本組合としても組合員のくらしに溶け込んだ共済の意義と役割果たす事業を展開し、職域社会になくてはならない存在価値の構築が必要であると考えております。

こうしたなか本年は、協同組合理念に立ち返り、協同組合とは何か、保険事業と何が違うのか、何を指すのかについて役職員と組合員で共通の理解をもち、共済制度の価値と職域社会で果たす可能性、役割を広げるとともに、「相互扶助（みんなでみんなを守る）」を広く発信する必要があると考えております。

本組合の事業として平成30年度より開始した保険商品「酒屋ガード」につきましても、引き続き業績拡大にご協力をいただきますようお願いいたします。

本年も、皆様方の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、ご健康とご多幸を心からお祈りし、新年のご挨拶といたします。